

- 02 金ケ崎チャレンジプロジェクト
- 03 第31回おらが村の永岡蘇民祭
- 04 金ケ崎町を元気にするふるさと応援寄附
- 06 まちの話題
- 08 マンスリートピックス
- 10 暮らしのカレンダー
- 12 ニューストピックス
- 14 information +
- 16 information
- 18 交番日より
福祉情報
- 19 かねがさきの音色
バイバイむし菌菌
- 20 face 柴田真衣さん



金ケ崎チャレンジプロジェクト 若い力を集結 地域の未来に明るい光

金ケ崎チャレンジプロジェクト実行委員会が企画した「雪明りinかねがさき」は2月11日、金ケ崎駅前イベント広場で開催されました。同プロジェクトは町内の高校生を中心に若者たちの活躍の場を作りたいという目的で昨年同実行委員会を組織。地域からの協力を得ながらも自分たちの力でイベントを作りました。

雪明りは、東日本大震災復興への祈りを込め月命日に開催。事前にメンバーで手作りする竹灯籠約300個を笑顔で描き、ニコちゃんマークやハート、日付の形に飾り付けました。温かく、そして明るく輝く幻想的な光景に、訪れた人たちは足を止め、目を奪われていました。

会場ではほかに、災害への思いや将来の夢などイベントに寄せられたメッセージの掲示やメンバー手作りのアクセサリーの販売、産直ろくちやんの協力による豚汁の振る舞いも行われました。



大量の竹で一から灯籠づくりにチャレンジ



一つ一つに手作業で明りを灯す



雪明り完成を喜ぶプロジェクトメンバー



ニコちゃんマークやハート、日付(2.11)を描いた雪明り

第31回おらが村の 永岡蘇民祭

第31回おらが村の永岡蘇民祭(永岡蘇民祭実行委員会主催)は1月27日、永沢土地改良区駐車場で行われました。今年、過去最多となる68人の下帯姿の裸男衆が参加し、蘇民袋の争奪戦を繰り広げました。

永岡蘇民祭は、昭和63年金ケ崎を襲った記録的な集中豪雨災害からの復興と地域を元気づけるため平成元年から始まりました。地域住民や県内各地の蘇民祭保存会との協力で年々盛大さを増し、当初は

地元住民20人だった裸男衆も、現在は全国各地からの参加者も含め毎年50人以上が参加しています。

当日は、永岡幼稚園児による踊りのほか、郷土芸能やさこいなども披露され会場を盛り上げました。裸男衆が入場すると、子どもから大人までバケツを持ち、道路を練り歩く裸男衆に勢いよく水を浴びせ水かけ祭りがスタート。その後蘇民袋争奪戦が始まると会場の熱気はピークとなり、10分間の争奪戦の末、昨年、一昨年とチャンピオンに輝いている阿部光平さんが見事3連覇を果たしました。

高橋利男委員長は「平成最後の蘇民祭が皆の協力で盛り上げることができ感謝している。新しい時代になってもこの勢いを継続させていきたい」と話していました。

第31回 取り主



阿部 光平さん(29)

＝永沢竹原＝
「今年は参加者も多くみんなとても気合が入っていました。地元以外に取り主は譲れないという思いで最後まで頑張ることができました。とてもうれしいです。」



かねがさきの冬の祭りが 今年も熱く燃え上がる

